

西村さん(右端)が描いた春日市を紹介する絵巻物



絵手紙を老人福祉施設などに送る絵手紙ボランティア、ひなたぼっこの会を主宰する春日市上白水、西村瑞枝さん(65)は6日、同市大谷の市ふれあい文化センターで大絵手紙展を開いた。西村さんが指導する教室の生徒や福祉施設の利用者、小学生など約120人が描いた絵手紙約1000点が展示された。

西村さんは、ちょっとしたメモにも挿絵を付けるのが習慣で、絵手紙は自然に始めていたという。1996年に「絵手紙で人を元気にしたい」と施設や病院に絵手紙を送る同会を設立し、今では、県内約20か所で教室を開き、公民館や福祉施設、小学校などで指導している。「教え子」は300人にも上り、その活動が認められ、2006年には同市の「お宝文化人」にも認定された。

今回が初めての開催となった大絵手紙展は、市内の観光名所などを紹介した絵巻物や太宰府天満宮「曲水の宴」を描いた西村さんの絵手紙をはじめ、幼児から98歳の「教え子」のもの、病院や福祉施設の利用者が

絵手紙 つなぐ心

もらってうれしい1000点展示

春日の西村さんと「教え子」ら



観光名所紹介の絵巻物も

ら、返信として送られてきたものなど、様々な絵手紙が並び、入場者を癒やした。「教え子」の同市若葉台西の山中久美子さん(57)は「先生は人生の師匠。いつも元気なので、お会いするだけでみんなが元気になる」と話し、西村さんは「描いて楽しい、出して楽しい、もらってうれしいのが絵手紙。見た人がみんな笑顔になれるのが絵手紙の魅力でしょうね」と笑った。問い合わせは西村さん(090・73955・9620)へ。

展示の成功を喜ぶ西村さん(前列左から3人目)とメンバー

